

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間中学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

I 子どもたちの学力向上

○学校教育総合プランの項目

1 個に応じた指導の充実

実施計画

①実施計画の重点等

☆基礎学力の定着を図るとともに、個に応じた指導の機会を設ける
 ☆支援教育の充実を図る

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・「確かな学力の育成」を図る＝校内研修（研究と修養）の充実
- ・授業力の向上を目指す（input-intake-output）を意識した授業づくり
- ・総合的な学習の時間を中心に、「知の実践化」を計る（沼中ラーニング キャリア教育・市民性教育）
- ・子どもの自尊感情を高め、プラスのストロークで子どもに接する（Treasure Student褒章制度の実施）

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実 (教育課程部)</p>	<p>①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)を保護者・生徒に周知し、参加を促す ②少人数学級での指導が有効となるよう指導の工夫・改善を行い、検証する</p>	<p>①夏季休業中に実施する発展的・補充的学習(サマーチャレンジ)の参加人数の増加を図る ②3年生で少人数学級を、また少人数指導、ティームティーチング等、効果的な学習形態の工夫・改善を、数学、保健体育、技術、英語で実施する</p>	<p>①継続 ②数学と英語の全学年、1・3年生の理科及び3年保健体育で、少人数指導、チームティーチング(TT)等、効果的な学習形態の工夫・改善を実施する。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ① 定着してきた。 ② 次年度も継続して研究する必要がある。</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p> <p>成果と課題 ① 補充的学習(いわゆる補習)は、教師側が指定しているので除外するが、今年度は発展的な学習として、生涯学習的な講座も組み入れたことで、昨年度参加者49名に対し、今年度参加者94名と倍増した。次年度は、地域の方にも講座を持っていただきたい。 ② 市の小規模校加配、数学の教員配置ができなかったため、数学で取り組めな</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p> <p>成果と課題 ① サマーチャレンジでは、生涯学習的な講座を18講座、参加人数276名で、地域講師の講座も3講座と目標を達成できた(一人2講座まで受講可とした)。今後一層、地域講師の講座も増やしていきたい。 ② 理科の実験などはTTを中心に数学と英語は習熟度別を基本にと、指導法の工夫を行うことが出来た。</p>
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>② 「読解力」向上の取り組みの推進 (研究推進担当)</p>	<p>①各教科指導の場で、言語活動を基に思考力・判断力・表現力等を身につけさせる取り組みを実践するように、全校体制で研究していく ②総合的な学習の時間や特別活動の場で、「読解力」向上の取り組みを取り入れるよう、全校体制で研究していく</p>	<p>①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを試行する</p>	<p>①本校の「目指す生徒像」と関連させて、あらゆる教育活動において「言語活動」の充実の取り組みを推進する。</p>
<p>読解力とは自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した</p>

果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し熟考し、これに取り組む能力

<p>成果と課題</p> <p>①研究授業を全員実施し、研究テーマにせまり全校体制で研究することができた。</p> <p>②各自課題解決学習を実施し、資料活用能力を発達し、まとめ学習などで発表する力を培う。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに、「生徒自ら考え、判断し、創造する授業を目指して～input intake outputを意識した授業づくり～」を研究テーマとして、年間7回の校内研修会、年間1回全員の公開授業と年間1回の研究授業(3クラス)を実施した。今年度はあるべき授業スタイルの共有化が中心であったので、次年度は、実践に一層力を注ぎたい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①前年度を受けて、今年度は「実践の年」と位置付け、横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、横浜国大鎌倉中の先生に模擬授業と講義をお願いし、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、評価方法についても研究を継続したい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。</p>
---	--	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 読書活動の推進 (司書教諭・教育課程部)	①図書委員会中心に、読書活動の活性化のための新企画を提案し、実行を図る ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	①朝の読書週間を設定し、読み聞かせを実施する ②市立図書館等との連携・協力の下に、カリキュラムのねらいを把握し、学習情報センターとしての機能の充実に努める	①継続 ②継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①、②市立図書館等の連携・協力の下、学習情報センターとしての機能の充実はさらに確立していくよう努める。	成果と課題 ①年間2回の、朝の読書週間を実施し、2回目に読み聞かせの実践を行った。 ②市立図書館との連携は日常化してきた。また、授業で図書館を使う取り組みも年間を通して行った。	成果と課題 ①年間2回の朝の読書週間を実施し、2回とも読み聞かせやブックトークの実践を行った。市立図書館職員の協力も得られた。 ②今年度は特に、沼中ラーニングと絡めて、1年生の横浜めぐりの資料を市立図書館から借り受けた。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進 (支援部)	<p>①支援を必要とする生徒について校内リソースを活用しながらの支援プランを作成検討し、実行に移せる方法を確立させる</p> <p>②困り感を持つ生徒と特別支援学級との共同学習のあり方を検討していく</p>	<p>①支援を必要とする生徒について具体的な支援プランを検討し、支援シートや支援教室を活用しながら支援を進める</p> <p>②困り感を持つ生徒に対する個別の学習指導を必要に応じて進めていく</p>	<p>①継続</p> <p>②継続</p> <p>③授業のユニバーサル化に着手する</p>
	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成した</p>	<p>(評価)</p> <p>①達成した ②達成できなかった ③達成した</p>
	<p>成果と課題</p> <p>①、②学年職員や支援時間担当が対応しても同時に複数の生徒に支援が必要な場合人材不足だったので人的リソースの再配置を考える必要がある。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①支援教室での個別指導を行った(年間3名)。また、火曜日の放課後に、希望者を募って「学習会」を実施した。</p> <p>②教育相談コーディネーターを二人体制とし、5月をスクール・カウンセラーや研究所の心理の専門家などによるアセスメント月間と位置づけて、不登校生徒及び通常級で困り感を抱く生徒を特定し、個別の指導を行った。結果として登校できるようになった生徒も2名いた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①支援教室でのソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を2名の生徒対象に行い、支援シートを作成した。また、火曜日の「自学自習の会」も定着し、毎回10名程度の生徒が参加した。</p> <p>②長欠生徒を対象とした個別の学習(1日2時間程度)を5名対象に実施し、上記支援教室でのSSTもスクールカウンセラー相談コーディネーターを中心に、週に1回程度、2名の生徒に実施した。結果として登校できるようになった生徒が1名いた。ただ、不登校生徒への対応が遅いという保護者からのご指摘もあり、「達成できなかった」としたい。</p> <p>③明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。また、クラス間で指導の差が出ないように、掃除の仕方や決まり等について「スクールスタンダード」をつくった。</p>

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間中学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

実施計画

①実施計画の重点等

☆道徳教育を充実(心の教育)させる
 ☆生徒・家庭との信頼関係に基づいた心身の育成に努める

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・本校の教育活動全体を通して行う道徳教育と「道徳の時間」との関連を明確化し、道徳教育を推進する
- ・家庭との連携を図り、食育も含め総合的な健康教育を実践していく

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
①基本的な生活習慣の育成 (支援部)	①各種おたより、保護者会等で家庭での基本的な生活習慣を依頼する情報発信していく ②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう ③教職員からすすんであいさつをする	①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する ②学校生活で睡眠不足等で体調が悪い生徒については、保護者と密に連絡をとりあう ③教職員からすすんであいさつをする	①各家庭に対して、睡眠確保・朝食の摂取・孤食を減らす・家庭のルールづくりを依頼し、状況を把握する ②継続 ③継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した

<p>成果と課題</p> <p>①、②、③基本的な生活習慣の育成については、特別活動や総合的な学習なども活用していけるとよい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。家庭における、家族としての役割分担を継続してほしい。</p> <p>②、③日常的な対応ができている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①6月と1月で、生徒アンケートを実施したが、1月時点で睡眠が7割以上、朝食摂取が9割以上、家庭のルールづくりが4割程度の肯定的な回答を得た。孤食については、1・2年生の9割以上、3年生で8割がほぼ誰かと一緒に食事をしているという、本校生徒の実態がわかった。</p> <p>②は定着している。③は生徒会とも連携して、「切り替えゾーン」をつくり、挨拶及び丁寧な言葉遣いの推進運動を展開した。学校評議員からも「沼中生は挨拶をきちんとしてくれる」という評価を頂いた。</p>
---	--	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>② 豊かな心を育む道徳教育の推進 (教育課程部)</p>	<p>①行事や体験学習の関連を利用しねらいの深化が可能な、道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る ②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業や体験学習の情報共有をしていく</p>	<p>①発達段階に応じて、行事や体験学習との関連を図り、ねらいの深化を図る ②発達段階に応じて、地域講師や地域機関等との連携を利用して、ねらいの深化を図る ③3年間が見通せる、道徳の学習一覧作成に取り組む</p>	<p>①継続 ②継続 ③道徳的判断力や実践力を養う授業の工夫を行う。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③達成した</p>
<div data-bbox="174 608 412 788" data-label="Image"> </div> <p>『キャラクター紹介』 ★名前 山りん ★山の妖精 ★女の子 ★住んでいるところ 沼間中学校の緑の丘 ★友達は山の生き物たち 親友はリス</p>	<p>成果と課題 ①道徳教育カリキュラム及び教材の情報共有を図る。 ②地域講師や地域機関等との連携を利用した授業は、計画的に実施し研究することができた。</p>	<p>成果と課題 ①各学年の年間指導計画に明示した。 ②特に、今年度は湘南三浦教育事務所管内、道徳教育推進教師を対象とした授業公開を11月に実施し、2年生の授業で地域講師3人の協力が得られた。 ③各学年の年間指導計画を一枚にした。今後、その関連性を精査していきたい。</p>	<p>成果と課題 ①年間指導計画に従って、各学年の担当を中心に継続的に取り組めた。また、今年度は生徒会と美術部に依頼して、左のような本校のマスコットキャラクターを作成し、愛校心の醸成にも努めた。 ②市の社会福祉協議会の協力を得て、1年と3年生で「心の授業」を実施した。 ③4月の授業参観では3年生が、11月の授業参観では2年生が道徳の公開授業を実施し、生徒に考えさせる授業に取り組んだ。</p>

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>③ 豊かな体験活動の推進 (教育課程部)</p>	<p>①、自然体験学習、修学旅行がより有効な課題解決学習の場となるように深化を図る ②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する</p>	<p>①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける(1年生から) ②職場体験の2日間を継続し、これまで以上にキャリア教育のねらいの深化が可能なよう工夫・改善する</p>	<p>①沼中ラーニングと自然体験学習、修学旅行等の取り組みを関連付ける(1・2年生) ②継続</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>

<p>成果と課題</p> <p>①課題解決学習の場として取り組み、まとめ学習の形態を工夫した。</p> <p>②職場体験学習の定着をはかりキャリア教育のねらいにせまるよう工夫改善することができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①1年生「横浜めぐり」の調査テーマとして、逗子の観光・ごみ・歴史をテーマに事前学習し、横浜の現状と比較した。</p> <p>②2日間、42事業所での「2年生職場体験」を実施した。学校関係者評価委員会では、受け入れ側の事情も考え、1日でも目的が達成できるのでは、という声があった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①1年生では前年度同様の取り組みが出来た。また、2年生の自然体験学習では、山梨と逗子の自然・文化比較、職場体験は「逗子の将来像」と絡めて取り組めた。</p> <p>②2日間、29事業所での「2年生職場体験」を実施した。2日間の実施が継続できるよう、学校評議員や逗子市商工会議所等の協力をどう得られるかが今後の課題である。</p>
--	---	--

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 食育の体系化と 体力づくり・健康教育 の推進 (保体科・家庭科・支 援部・指導部・教育課 程部)	①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる ②部活動や家庭でのスポーツ体験に対しての意欲を喚起し、自らの健康管理が大切な能力であることを知らせていく	①薬物乱用・喫煙防止等、発達段階に応じて学習させることと並行して、普段の食生活についてよりよく改善しようとする意識を持たせる ②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう促す	①継続 ②身体的自立を目指し、自ら身体づくりや食育、健康づくりに取り組めるよう、学校全体で促す
(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成した
成果と課題 ①体育科としては授業で適切に扱い、普段の食生活については保健委員会などとタイアップし行えた。 ②部活動において部活協議会を通じ、それぞれの部活動における意欲を喚起できた。自らの健康管理は保健体育科とし、適切に指導をおこなった。	成果と課題 ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。 ②保健体育科や部活動を通じて指導を図ったが、全国体力運動能力テストの結果からは、あまり成果が見えなかった。	成果と課題 ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。 ②保健体育科では、「沼中スペシャル」(体力づくりの準備運動)や「私のバロメーター」(学習カード)をつかって計画的に取り組む、例年の本校の1年生のデータに比べ、「ハンドボール投げ」と「反復横跳び」に顕著に結果が表れた。また、部活動、チャレンジデーでの取り組みを実施した。 食育は、市の管理栄養士による授業及び給食指導の中で行った。	成果と課題 ①学年ごと、また全校で、外部講師を招いたり養護教諭から講演等を実施した。 ②保健体育科では、「沼中スペシャル」(体力づくりの準備運動)や「私のバロメーター」(学習カード)をつかって計画的に取り組む、例年の本校の1年生のデータに比べ、「ハンドボール投げ」と「反復横跳び」に顕著に結果が表れた。また、部活動、チャレンジデーでの取り組みを実施した。 食育は、市の管理栄養士による授業及び給食指導の中で行った。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間中学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

実施計画

①実施計画の重点等

☆安全・安心な学校づくりと効果的な防災教育を行う
 ☆積極的ないじめ・不登校等への対応に努める
 ☆キャリア教育を推進する

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・地域防災訓練、不審者対応等で地域との連携を図る
- ・家庭との情報共有を密に行い、信頼関係を構築する
- ・沼中ラーニング（キャリア教育・市民性教育）の推進＝人間関係形成能力を育み、勤労観・職業観を育成するとともに、市民としての基礎を培い生活に即した学習を編成する（中1から）

○学校教育総合プランの項目

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 学校安全の推進 (総務部)	①防災アドバイザー、逗子警察等の連携の下に、事故防止及び安全点検、危険箇所の除去を定期的・継続的に行う ②沼間小学校区避難所運営委員会との連携下、生徒が自らの命を守ろうとする危機管理意識の向上を図る	①保健委員会等がリーダーシップをとり、生徒自らが危機管理意識をもち、安全点検に参加する ②地域講師を迎えての授業に避難所運営訓練を導入し、身近な体験活動等を通じた防災教育を行う	①継続 ②継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①生徒の手による防災マップの取り組みをおこなうことができた。 ②継続的に実施したい。	(評価) ①達成できなかった ②達成した 成果と課題 ①まだまだ、生徒自らの危機管理意識をもった取り組みにはいたっていない。 ②ふれあいデーや避難訓練時に、避難所運営委員会・消防署等の協力を得て、アルファ米をもどす・救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行うことができた。	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①毎月、教職員による安全点検は実施していたが、それに加え、保健委員会が毎日行っている清掃チェックと同時に、校舎内の安全点検を行う取り組みに着手した。 ②ふれあいデーでは実施できなかったが、避難訓練に際して、逗子市消防署の協力を得て、救急搬送の方法・消火器の扱い方・煙体験等、様々な体験を行えた。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 問題行動等への対応の推進 (支援部)(指導部) (教育課程部)	①共生社会に向けて生徒が互いの困り感を認め合い助け合える温かい学級づくりに努める ②道徳の時間や生徒会活動を通して、規範意識を培い生徒自らがいじめを許さない集団を作っていくよう指導していく	①安心・安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法を学ぶ ②本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、問題行動の防止に向けた取り組みを実施する	①安心安全な学級づくりに向けて、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等の手法及び学級づくりの自己チェック表・解説を活用する。 ②継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した

<p>成果と課題</p> <p>①生徒会活動を通して規範意識を高める指導は課題である。</p> <p>②教員だけでなく社会福祉協議会などの関係団体にも協力してもらおう。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①研究所の協力の下、複数回の研修や実際に授業を行った。研修図書も購入したので、今後とも研修を継続したい。</p> <p>②定期的な生活アンケートとともに、日常的に生徒を見ることを大切に、いじめの早期発見・早期対応に努めた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①研究所の協力の下、1年生で全クラス2回の構成的グループエンカウンターの手法を用いた、学級づくりの授業を実施した。今後の一層の展開が求められる。自己チェック表・解説の活用については、全教員で授業の自己チェックを実施し、学校の傾向を分析できた。</p> <p>②定期的な生活アンケートを工夫し、氏名記載の調査に変えたことで、調査後の対応が図りやすくなった。</p>
--	---	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進 (総務部)</p>	<p>①教職員研修等で小中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく ②学校間の信頼関係を構築し、9年間の学習や生徒指導を意図的、効果的に行っていく ③授業参観等に参加していく</p>	<p>①教職員研修等で小・中連携を深め、学びの連続性を追及し家庭学習の定着を図っていく ②小・中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」に着手する ③小・中での授業参観や出前授業等実施する</p>	<p>①継続 ②小中9年間を見通した、「学び方のカリキュラムづくり」を具体化する ③継続 ④小中連携研修会で、小中の模擬授業を行い研究する</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した ④ 達成できなかった</p>
	<p>成果と課題 ①、②、③ 中学校へ授業参観にきてもらうことはできたが小学校の授業参観をすることはなかなか時間調整が難しかった。</p>	<p>成果と課題 ①小・中合同研修会で、学びの連続性をテーマにしたが、家庭学習の定着は検証できていない。 ②小・中合同研修会において、9年間の学びのカリキュラム原案を提示することができた。今後、この原案を元に、できることから実践化していきたい。 ③英語の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。</p>	<p>成果と課題 ①小中連携研修のテーマが「アクティブラーニング」だったため、取り組めていない。 ②中学校からの原案に対し、小学校からは未だ回答をもらっていない。 ③英語や体育の出前授業や、複数回の相互の授業参観を実施した。 ④中学校教員による模擬授業のみ行った。小学校は次年度に先送りした。</p>
行動プラン	H25(2013)年度予定内容	H26(2014)年度予定内容	H27(2015)年度予定内容
<p>④ 国際教育の推進 (英語科・教育課程部)</p>	<p>①多様な文化を理解し共生できるよう小学校外国語活動との連携の下に、意識を育てていく ②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく</p>	<p>①校外活動等で、自ら、国際交流の機会を見つけ、発表していく等、実践の機会を模索していく ②IEA(国際教育指導助手)のより効果的な活用を研究していく</p>	<p>①学校として、国際教育・多文化共生教育に取り組む。 ②継続</p>
	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成できなかった ② 達成した</p>

<p>成果と課題 ①、②外国語の授業だけでなくIEA(国際教育指導助手)が学校行事などにかかわりをもつことができた。このことを継続したい。</p>	<p>成果と課題 ①沼中ラーニングのテーマとして、国際教育を取り入れられなかった。 ②英語の授業で、IEA(国際教育指導助手)を活用し、国際理解教育を実施した。</p>	<p>成果と課題 ①昨年度に続き、市の国際教育研究授業は本校で行ったが、学校全体としては取り組めていない。 ②英語の授業で、IEA(国際教育指導助手)を活用し、国際理解教育を実施した。</p>
---	--	--

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑤ キャリア教育の推進 (教育課程部)	①1年「将来の夢」、2年「職場体験」、3年「義務教育終了後の進路」と、段階的に自分の生き方を考えさせる ②職場体験2日間実施し、よりねらいを深化していく	①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育に着手する ②職場体験を2日間実施し、ねらいをより深化していく	①3段階のカリキュラムの流れと並行して、市民性教育の実践とカリキュラム化を進める(1・2年生) ②継続
	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①学年別に計画的に自分の生き方を考えることができた。 ②職場体験は定着し、ねらいにせまることができた。	成果と課題 ①1年生で、市長の講話や経済観光課・観光協会・資源循環課・教育研究所などの機関に協力いただいて、「沼中ラーニング」(キャリア教育と市民性教育の統合)に着手した。 ②2年生で、42事業所において2日間の職場体験を実施し、事前事後指導も含めて、ねらいを達成できた。	成果と課題 ①1年生は昨年度同様、2年生は「自然体験学習」で山梨と逗子の自然・文化比較、「職場体験」を「逗子の将来像」と絡めて取り組んだ。 ②2日間の職場体験を「仕事を知る」と同時に、逗子市内の事業所・事業主が逗子市の将来像をどう描いているか、調査することで、3年次での市への提言につなげる活動に取り組んだ。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑥ 福祉教育の推進 (支援部・教育課程部)	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる	①学校生活のあらゆる場面で実践することで、福祉・人権への意識を高め、差別、偏見を許さない集団をつくっていく ②外部機関を積極的に導入し、性教育、精神障害やストレス回避について学習をさせる	①継続 ②継続
	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ② 達成した

行動プラン

<p>成果と課題 ①、②外部講師を招いて授業を実施し福祉・人権への意識を高めることができた。</p>	<p>成果と課題 ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。</p>	<p>成果と課題 ①、②外部講師を招いて3年生を対象に授業を実施し、福祉・人権への意識を高めることができた。特に3年生では、社会福祉協議会の協力で「手話」の講座を設定し、聴覚障がい者への理解を深めることが出来た。</p>
<p>H25(2013)年度予定内容</p>	<p>H26(2014)年度予定内容</p>	<p>H27(2015)年度予定内容</p>

⑦ 環境教育の推進 (教育課程部) (地域連携部)	①環境委員会中心に、学校の自然環境を自らの手で守っていく姿勢を育てる ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる	①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を実行していく ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々の協力を仰ぎ、地域の大人たちが自然を守ろうとする姿勢をみせることで、自然を守る大切さを知らせる	①環境委員会から、企画を出させ、環境教育を進めていく ②継続
	(評価) ①達成した ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ①達成した ② 達成した
	成果と課題 ①環境委員会の生徒の手により生物の飼育や学校の自然環境を大切にする取り組みをおこなった。 ②学校支援地域本部、P&T(本校保護者と学校との連携組織)の方々との連携をとり、学校の自然環境づくりに努めることができ、生徒に自然を守る大切さを知らせることができた	成果と課題 ①環境委員会からの企画提出にはいかなかった。 ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが恒常化してきた。	成果と課題 ①環境委員会が主導して、ゴミの減量化に取り組み始めた。 ②校内の花いっぱい運動や地域清掃等、取り組みが定着した。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑧ 情報教育の推進 (教育課程部)	①ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を研究する ②教科におけるICTを活用した生徒の発表を指導していく	①ICT(情報通信技術)を活用した指導の充実を図り、「分かる授業」を実践する ②教科におけるICT(情報通信技術)を活用した生徒の発表実践を増やしていく	①ICTを活用した指導の充実を図り、「分かる授業」の実践を検証し、改善する ②継続
	(評価) ①概ね達成した ②概ね 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した

<p>成果と課題</p> <p>①ICTを活用した授業は継続して取り組む必要がある。</p> <p>②ICTを活用した生徒の発表は継続指導が必要である。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①②数値的なデータはないが、授業にICT(情報通信技術)を活用する取り組みは数多く見られた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①授業のユニバーサル化の取り組みと関連させて、視覚的な情報提供として、オーバーヘッドカメラやプロジェクターを活用した授業を多く取り入れた。</p> <p>②「目指す生徒像」のコンピテンシーを身に付けさせるべく、授業や行事の発表など意識的にICT(情報通信技術)を活用した。</p>
--	--	--

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立沼間中学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

II 課題に迅速に対応する学校づくり

○学校教育総合プランの項目

2 地域に開かれた学校づくり

実施計画

①実施計画の重点等

- ☆学校・家庭・地域が一体となる体制づくりを実現する
- ☆地域教育力活用の推進を図る

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・ホームページの更新、学校便りの地域回覧、校長通信の発行等、情報を積極的に保護者・地域に発信する
- ・学校改善に資する学校評価を実施する

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>① 地域への情報発信と 学校公開の工夫 (地域連携部)</p>	<p>①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、逗P連(逗子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する ②学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく ③青少年育成推進の会、沼間小学校区地域連合会等との外部機関との連携を深める</p>	<p>①P&T(本校保護者と学校との連携組織)として、逗P連(逗子市PTA連絡協議会)に加入すべきか検討する ②学校公開等あらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図り、情報発信していく ③関係機関との連携を密にとって、学校情報を発信していく</p>	<p>①P&T組織の強化を一層図る ②継続 ③継続</p>
	<p>(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p>
	<p>成果と課題 ①、②、③ PTAへの加盟については議論が始まったばかりである。</p>	<p>成果と課題 ①PTA加盟は、現状すぐには難しいと判断し、現在のP&T組織の強化を図ることから着手した(保護者の役割を増やしたり、規約改正し、前年度に運営役員三役を選出)。 ②今年度より、毎月2回のペースで、校長通信「こぶしの花」を発行した(2月13日時点で24号発行)。 ③学校評議員会や住民自治協議会へも参加し、連携を図った。</p>	<p>成果と課題 ①規約改正により、前年度に選出された運営役員三役を中心として、P&Tの活動が保護者主体のものに変わってきている。 ②毎月2回程度、校長通信「こぶしの花Ⅱ」を発行し、学校経営や校長の思いなど情報提供した。(3月4日時点で26号発行)。 ③学校評議員会の場や住民自治協議会へも参加して、「校長通信」や「学校便り」など配布し、情報発信した。</p>
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>② 地域教育力の活用 (地域連携部)</p>	<p>①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する</p>	<p>①学校支援地域本部の協力で、教科の授業等にも地域講師、学校教育支援ボランティアの活用を積極的に行っていく ②図書館ボランティアを継続し、開館時間を増やすとともに生徒の読書活動を保障する</p>	<p>①継続 ②継続</p>

<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成できなかった</p>
<p>成果と課題 ①、②図書館ボランティアは継続できたが開館時間を増やすことはできていない。</p>	<p>成果と課題 ①道徳の授業で地域講師を活用するなどしたが、今後一層教科等で地域人材の活用を図りたい。 ②定着した。</p>	<p>成果と課題 ①サマーチャレンジ、総合的な学習(沼中ラーニング)、特別活動、道徳の授業では多くの地域講師を活用したが、教科では理科のみで、今後の課題である。 ②今年度は、図書館ボランティアが見つからず、開館時間を増やすことが出来なかった。</p>

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>③ 学校評価を生かした 学校の改善 (地域連携部)</p>	<p>①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する</p>	<p>①学校関係者評価委員会での意見は必ず改善策を考え、実行していく ②授業参観保護者授業評価もマークシート方式に改善することで迅速に結果を出せるようにし、改善案を学年会で作成する</p>	<p>①継続 ②保護者・地域からは、文章だけでなくマークシート方式のよさも加味しながら評価をいただき、改善につなげる。</p>
	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>	<p>(評価) ① 達成した ② 達成した</p>
	<p>成果と課題 ①、②マークシート方式に改善することで多様な集団の集計ができるようになった。</p>	<p>成果と課題 ①学校関係者に小学校・高校・大学の関係者を置き、小・中・高・大を見据えた教育について論議した。 ②学校の重点取り組みを明示し、文章で評価いただいた。具体的な激励や改善につながる意見が頂戴できた。</p>	<p>成果と課題 ①昨年度末いただいたご意見を精査し、取り組めるところから早急に改善を図った。 ②学校の重点取り組みを明示し、多数の保護者からご意見を頂戴できるように、今年度はマークシート方式を加味して実施し、回答していただいた人数が149名と、昨年度の51名を大きく上回った。ただ予想されたことだが、文章による回答は19名と少なくなってしまったことは課題である。また、「沼中ラーニング」「校内研究」「支援教育」の項目で「わからない」が30%を超えており、情報提供・周知に課題があった。</p>

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立沼間中学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

Ⅲ 教員の指導力向上

○学校教育総合プランの項目

1 教員研修・研究の充実

実施計画

①実施計画の重点等

☆授業研究の充実を図る
 ☆学校運営組織を活性化し、ミドルリーダー中心に人材育成が可能な職場づくりを目指す

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

・学校内におけるOJTを組織的に導入していく（メンタリング、ブラザー&シスター制）

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 授業研究の充実 (教育課程部)	①グランドデザインを校内研究会で作成する ②年間1人2回は授業公開する	①グランドデザインの見直しと、それに基づいた授業実践を行う ②年間1人2回は授業公開する	①グランドデザインに基づいた授業実践の成果と課題を明らかにする ②年間1人2回以上、研究と関連させた公開授業を実施するとともに、年間指導計画に生徒主体の授業を明示する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった

<p>成果と課題</p> <p>①グランドデザインについて校内研究会で提案し、作成することができた。</p> <p>②全員が授業公開をし、授業力向上に役立てることができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①グランドデザインを校長より提示し、コンピテンシーレベルの力をどう付けていくのか、協議した。</p> <p>②年間1回の授業公開にとどまった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①授業実践の成果と課題は、校内研究の中で明らかにしてきた。ただ、「目指す生徒像」のコンピテンシーを、授業の年間指導計画に明示するつもりであったが、教科用図書の採択の年でもあったので、次年度に先送りした。</p> <p>②年間一人2回以上の公開授業は行えたが、①に書いた理由で、生徒主体の授業を年間指導計画に明示することは先送りした。</p>
--	---	--

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 授業評価の活用 (総務部)	①生徒による授業アンケートは教科ごとに集計し、教科の課題として検証・改善をめざす ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する	①前年度の検証・改善結果が良い方向に向かっているか再検証する ②授業参観では地域・保護者が評価しやすいように、新しい書式でアンケートを作成する	①前期・後期に年間2回の授業アンケートをとり、前期の課題を後期に活かしてその成果を検証する ②継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成できなかった ②達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した
	成果と課題 ①、②アンケート用紙は教員用保護者用と文言をわかりやすくする必要がある。	成果と課題 ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証と流れを考えていたが、2回目が実施できていない。 ②アンケートの実施はできたが、回収率	成果と課題 ①年間2回の授業アンケートをとり、1回目の分析・検証から改善、2回目の検証へとつなげることが出来た。 ②アンケートは例年通り実施したが、回収率の向上は図れていない。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 研修事業の充実 (支援部・総務部)	①支援が必要な生徒へのかかわり方や授業内での指導・支援方法について校内研修を企画し実践する ②研修に適切な日時を設定し、目的に応じて外部講師を活用し、研修の効果を高める	①教育のユニバーサル化に向けた研修に着手する ②授業研究のスーパーバイザーを選任し、適切なアドバイスをいただく	①授業のユニバーサル化に向けた研修に着手する ②横浜国大米澤准教授を授業研究のスーパーバイザーにお願いして適切なアドバイスをいただくとともに、横浜国大鎌倉中学校の協力を仰ぎ、授業研究を進める
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した

<p>成果と課題</p> <p>①夏と年度末の休業中に研修を企画し、実践できた。</p> <p>②さらに学校の状況にあわせた研修を企画し、実践したい。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①研修とともに、教室前の掲示板にロールカーテンを取り付け、学習環境の構造化を計ったり、スクールスタンダードの作成に着手した。今後は、授業のユニバーサル化に発展させたい。</p> <p>②横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに、年間3回の講演で、本校が目指すべき授業スタイルの共有化を図った。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①明星大学の中田正敏先生の「インクルーシブな学校づくりにおける学習研究活動～支援というコンセプトの導入～」と題した講演を受け、校内研究とも関連させながら、授業のユニバーサル化に着手できた。</p> <p>②横浜国立大学・米澤准教授をアドバイザーに年間6回の校内研修会、年間2回全員の公開授業と年間1回の研究授業を実施した。また、横浜国大鎌倉中の先生に模擬授業と講義をお願いし、研究テーマに沿った授業を実践した。次年度は、アクティブラーニングにおける評価方法についても研究を継続したい。また、教科の年間指導計画と「目指す生徒像」との関連を図りたい。</p>
---	--	---